

停戦協定 60 年・反戦平和国際連帯行動訪韓報告

不戦ネットも参加する、「韓国併合100年」東海行動実行委員会は、朝鮮戦争の停戦60年になる今年7月、韓国で行われた「停戦協定60年・反戦平和国際連帯行動」に参加しました。きっかけは、毎年行っている、3・1独立運動記念の集いに、「日韓民衆連帯全国ネットワーク」の共同代表である渡辺健樹さんの講演会の終了後、呼びかけられたことでした。

この提案を受けて、7月13日に元広島市立大学広島平和研究所所長浅井基文さんをお迎えして「朝鮮半島の停戦60周年を平和体制の元年」をテーマに前段集会を行いました。7月26日から28日まで、韓国ソウルを中心に行われた「停戦協定60年・反戦平和国際連帯行動」には、名古屋から7名、全国からは東京、大阪、沖縄や平和フォーラムのメンバーなど総勢50人余りが参加しました。

また、9月28日には、名古屋学院大平和学研究会との共催で、報告会も行いました。朝鮮半島の分断と統一を阻害する原因が、日本の侵略戦争や植民地支配や戦後の冷戦体制の中での分断固定化政策の推進にあります。朝鮮半島の平和と統一の問題は、領土問題や北朝鮮の核やミサイル問題を口実に、軍事力の強化と改憲を目指す安倍自民党政権に動きに歯止めをかけるためにも見逃してはならない視点だと考えます。韓国での行動を報告します。(山本みはぎ)

●7月26日：国際平和シンポジウム

ソウル女性プラザ国際会議場において、「停戦60年・朝鮮半島平和協定締結のための国際シンポジウム」が開催されました。オ・ジョンヨル韓国進歩連帯総会議長（写真）の挨拶や、イ・チャンボク南北共同宣言実践南側地域委員会共同代表の連帯の挨拶で始まりました。



特別講演は、ミッシェル・チェストフスキ（カナダ・オタワ大学）「アメリカは持続的に北朝鮮に戦争を仕掛け、平和協定違反を繰り返し、北朝鮮を標的に核兵器開発を続けている。「潜在する戦争状況」は60年間続いている。より早く、アメリカ軍を撤収させ、韓国統一の基礎を築くこと。和解協定は外部勢力を排除し、韓国と北朝鮮によって進めることが重要。2000年6月15日の南北共同宣言に沿って、南北共同委員会を設置すべき。」との提言がなされました。



内容：第一部>「朝鮮半島の停戦体制終結と平和体制」

パネリスト

[米国] グレゴリー・エリック・ミヤセノヴァツ 研究所理事

NATOの戦争犯罪を調査する米国調査団メンバー)

[日本] 服部良一 (前衆議院議員)

[中国] シオン・レイ (清華大教授)

[韓国] パク・スンソン (前民主政策研究院院長民主統合党傘下のシンクタンク)

パク・キョンソン (進歩政策研究院副院長統合進歩党傘下のシンクタンク)



第二部>「東北アジアの平和のための国際共同行動」

パネリスト

[米国]ティム・ショーロック

(アジア太平洋の平和と非核化)のための運営委員会委員)

[日本]渡辺健樹(日韓民衆連帯全国ネットワーク共同代表) (写真)

(韓国) ミン・ピョンヨル(統合進歩党最高委員)

イ・テホ (参与連帯事務総長)

チュ・チェチュン(韓国進歩連帯政策委員長)



レセプションでの
沖縄からの発言

●7月27日：国際平和大会

場所：ソウルと軍事境界線近くの「イムジン（臨津）閣」一帯

日本・米国・中国などの外国訪問団一行は、朝鮮半島の統一を祈願するために立てられた観光地で、1972年に建設が進み、軍事境界線から南に7km離れた所に位置する臨津閣を訪れ、集会と共同記者会見を行いました。



名古屋からの訪韓メンバー

DMZ(非武装地帯) 訪問

DMZ(非武装地帯)は、南北朝鮮戦争の休戦時に決められた休戦ラインの南北2km内のエリア。通常、一般人は立ち入りができない為、入るには厳重なチェックが行われる。

●ソウル龍山(ヨンサン) 米軍基地平和行進・集会

ヨンサン米軍基地は、日本統治時代、龍山基地は大日本帝国陸軍の駐屯地として使われ、朝鮮軍司令部などが置かれた。戦後米軍が駐留し一時撤退したが朝鮮戦争休戦後の1953年、再び米軍が駐留。現在は在韓米軍司令部として首都ソウルの中心地を占拠しています。

都羅山(トラサン) 駅
盧武鉉(ノ・ムヒョン) 政権時代には頻繁に行き来がありましたが、李明博・朴槿恵政権と続き南北関係の悪化の中で、現在は閉鎖。



●停戦60年・朝鮮半島緊張緩和と 平和実現のための汎国民大会

夜に行われたキャンドル集会。前半は停戦60年の平和集会、後半は国家情報院(前身はKCIA 国家情報部)への大統領選不正糾弾集会に参加。



